

## 埼玉県立川の博物館

令和4年度特別展「海なし雪なし火山なし  
—ないけどある！埼玉との深い関係—」

開催期間：2022年7月9日（土）～2022年8月31日（水）



### 【企画展の内容・目的】

- 埼玉にはない「海」「雪国」「火山」をテーマに取り上げた。日ごろ接する機会の少ない海洋や他地域の自然環境について学ぶ機会を提供し、同時に、それらが、埼玉の自然や文化、私たちの暮らしと密接に繋がっていることを伝えることを目的とした。
- 海の生物に触れられるタッチプールや、県内で採取できる海棲生物化石の発掘体験、海藻の押し葉づくり、展示解説等を行い、海の生物に実際に触れて学ぶ機会を提供し、海洋と自然環境との関わりを伝えることを目標とした。

## 1. 企画展示の内容

- 開催期間：2022年7月9日（土）～2022年8月31日（水）
- 開催場所：埼玉県立川の博物館 第2展示室・リバーホール
- 入場者数：20,221人



川の博物館 外観



企画展会場 入口



展示室入口手前のリバーホールに、丸木舟の模型や溶岩、除雪道具など大型の展示物に加え、海・雪・火山の復元画や風景写真の大型タペストリーで目を引き、特別展へ誘導する導入の役割をもたせた。また、磯とアマモ場を再現した海の生き物水槽を設けて生体展示し、間近で海の生き物を観察できるようにした。



「Ⅰ. 埼玉にはない…憧れの海！」では、多様な海の生き物の標本を、分類群ごと、環境ごとに展示し、海の生き物の多様性、環境によって異なる生態系を紹介した。また、海での自然観察の手法や観察時の注意事項などを紹介し、海へ訪れるきっかけにつなげた。



「Ⅱ. こんなにある！埼玉と海のつながり」では、古生代から現代に至るまでの埼玉と海の間につながりについて紹介した。埼玉に海があった古生代から新生代の海の痕跡が残る岩石や化石、縄文時代の貝塚や漁具、現代でも埼玉にやってくる回遊魚や海鳥などの生物標本、海の恵みであるサケ・ウナギ・アユの歴史資料を展示し、海と埼玉とのあらゆる繋がりを通じて、海を身近に感じその大切さを改めて感じられる展示とした。



「Ⅲ. 火山・海洋島の自然」「Ⅳ. 足もとに眠る火山の痕跡」では、海洋島の植物標本や、海底火山由来の埼玉産の岩石などを展示した。火山の成因に海が重要な役割を果たしていることを知り、地球規模での海との密接な繋がりを感じ、海的重要性について理解を深められる展示とした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



「V. 雪国と埼玉の自然と暮らし」では、雪国の民具や動植物標本、温暖湿潤な海洋性気候下で栽培される埼玉のチャノキの標本などを展示した。海流によってもたらされる日本海型気候の豪雪と、それによって太平洋側にもたらされる乾燥した冬の季節風との関係を学び、海洋が気候や暮らしに密接に関わっていることを伝える展示とした。



サテライト展示「火山灰の積もった埼玉のやせた台地が広い農地になり江戸の暮らしを支えた!？」では、土壌改良の痕跡の残る土壌標本や、その台地で栽培された作物を舟運で運んだ歴史資料や浮世絵などを展示した。火山灰台地を開拓して栽培された農林産物が舟運によって江戸に下り、反対に海産物が江戸から上ってきた、海との川を通じた交流を紹介した。

### 【来館者の声】

- 自分の知らない生き物をしれてよかった。自分の生活をかえていけば、海はきれいになる、ということが分かった。(9歳・女)
- 海の生き物がよかった。さいたまにもむかし海があったことを感じました。(8歳・男)
- 今でこそ海なし県であるが、つながりがあるのだなと感じた。(19歳・男)
- 海には想像以上にたくさんの動物がいることがわかった。また、海底火山由来の島だと一度も大陸と接していないから独自の生態系になるというのも興味深い。(32歳・女)
- 海の自然山の自然を地球きぼで守りたいと思いました。(9歳・男)

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

## 2. 関連事業の内容

### ■講演会「火山のない埼玉の火山災害」

【開催日時】2022年7月10日（日） 13:30～15:00

【開催場所】埼玉県立川の博物館 ふれあいホール

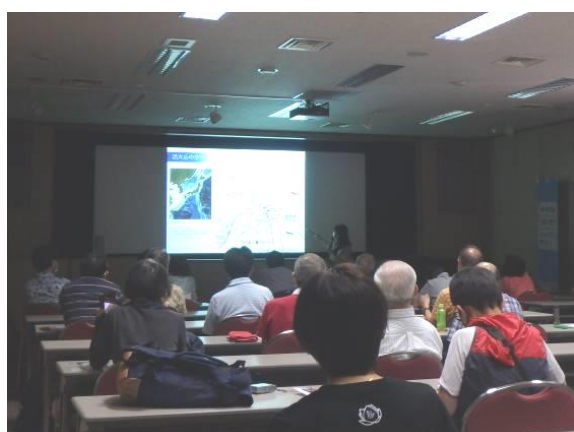
【参加者数】37人

【実施内容・目的】

- 井上素子学芸主幹（県立自然の博物館）を招いて、火山の成り立ちや、埼玉にも影響を及ぼした浅間山の天明噴火について紹介した。火山の成り立ちと海洋プレートとの関係に加え、海洋プレートとの位置関係から埼玉に活火山がない理由を解説し、海洋と火山の関係への気づきを促した。



浅間山天明三年の大噴火が、降灰や泥流などによって埼玉にまで影響を及ぼしたことを、鬼押出溶岩流の研究成果を交えながら解説した。



海洋プレートの運動によって火山がつくられるため、海溝に沿って火山が分布していること、埼玉に活火山がないことを学んだ。

## 【来館者の声】

- 海洋汚染については、世界規模で語られているわりには具体的な策がなかなか論じられていない。うみをもっと真剣に大事にしなければ、と再認識した。(70歳・男)
- はなれていたたいりくが、太へいようプレートのしずみこむえいきょうによってくつつきりゅうきして山ができたということを学んだ。(10歳・男)
- 海洋プレートと火山の関係がわかり、海(水)が火山他全てに影響している。(55歳・男)

## ■海の生き物に触れてみよう

【開催日時】2022年7月18日（月）

10:00～12:00・13:00～16:00

【開催場所】埼玉県立川の博物館 レストハウス1階

【参加者数】308人

【実施内容・目的】

- 海の日に合わせてタッチプールを設置し、ヒトデ、ナマコ、ウニなどを触って観察できるようにした。
- 県内では見られない生き物を間近で観察してもらうことで、馴染みの薄い海の生き物について学び、陸上とは異なる海の生き物の多様性を実感してもらった。



整理券を配布して人数管理をしたうえで、屋外に設置したタッチプールで、東京湾周辺で採取してきたヒトデ、ナマコ、ウニ、ヤドカリに触る体験を提供した。



触り方に加えて、各生き物の生態や形態について適宜説明をしながら観察を行った。実際に触れて間近で観察すること、海の生き物の生態や陸上の生き物との違いを体感した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

## 【来館者の声】

- なまこ、やどかり、ひとでがさわられてゆおかつたし、うみは大切な物だとわかりました。(9歳・女)
- ウニにさわられて楽しかった。海に行きたくなりました。(7歳・男)
- ヤドカリの種類の違いが、海の深さによって変わるのを知ってびっくりした。さわったことのない生き物もいたので、とても勉強になった(13歳・男)
- 初めての生物をさわられて嬉しかった。生き物を大切にしたいと思いました。



## ■古秩父湾の化石発掘体験

【開催日時】2022年7月29日（金）

①10:00～12:00 ②13:30～15:00

【開催場所】埼玉県立川の博物館 講座室

【参加者数】45人

【実施内容・目的】

- 貝化石専門の山岡勇太学芸員（県立自然の博物館）を招き、かつて埼玉にあった古秩父湾やそこに生息した生き物についてスライドで解説を受け、古秩父湾堆積層の転石を割って海の生き物の化石を探した。
- 古秩父湾の存在した新生代第三紀の秩父の豊かな海を感じ、海洋生物化石研究の一端を体験してもらった。



現代の海が地球の大半を占めており、新生代第三紀には埼玉にも海が広がっていたことを説明した。当時の古秩父湾堆積層から見つかった生き物の化石をクイズ形式で紹介した。絶滅したクジラや大型のサメ、パレオパラドキシアなども発掘されており、秩父が海洋生物化石研究の場として世界的にも重要な場所であることを学んだ。



事前に採取して準備した古秩父湾堆積層の転石を参加者自らがねと金槌を用いて割り、化石を探した。見つけた化石については、適宜講師に種類を聞くなどしてレクチャーを受けた。二枚貝、魚の鱗、カニ、スナモグリ、植物などの化石が見つかり、古秩父湾の多様性の一端を実感することができた。

## 【来館者の声】

- 化石発掘体験で、ちちぶの海を感じました！（8歳・男）
- 今は海がないけれど、むかしは海があって、いろいろな生物がいたことを学びました。（8歳・女）
- 化石を見つけて、海を少し身近に感じた。（9歳・男）
- 埼玉の海についてもっとしりたくなりました。（11歳・男）
- 海に行きたい。（48歳・女）

## ■海藻押し葉をつくろう

【開催日時】2022年8月7日(日)

①10:00～12:00 ②13:30～15:00

【開催場所】埼玉県立川の博物館 講座室

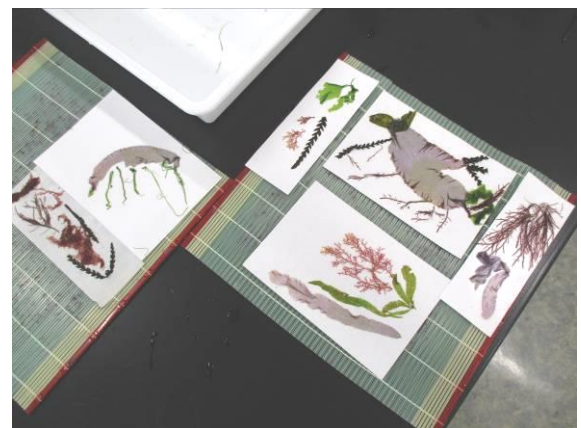
【参加者数】41人

【実施内容・目的】

- 海藻についてその生態や形態、役割などをスライドで紹介し、東京湾周辺で採取した海藻を材料に海藻押し葉を自由にデザインして作成した。生の海藻に触れることで、生き物としての海藻を知り、陸上の植物とは異なる色、形などの多様性を体感してもらうことを目的とした。加えて、海藻を通して、海の生態系や環境について考えるきっかけを提供した。



身近な食べ物としての海藻を導入に、生き物としての海藻の形態、生態系の中での役割、陸上植物との違い、海藻と環境変化の影響などについてスライドを使って、クイズを交えながら解説した。



押し葉の作成方法を伝えた後、海藻8種を使用して、配布した台紙の上に各自自由に作成した。実際の海藻を触ったりにおいをかいたりすることで、海藻や海の生態系の多様性を体感した。

## 【来館者の声】

- 海藻が見られてよかった、のりやかんてんも海藻だと知りました。(6歳・男)
- 海のかおりがしたりした。新潟の柏ざきのおいがした。(10歳・女)
- 海を守らなければいけないと思った。ワカメの形(生きている時)をはじめて知った。(9歳・女)

## ■学芸員による展示解説

【開催日時】 2022年7月31日（日）・8月28日（日）

①11:00～11:45 ②14:30～15:15

【開催場所】 埼玉県立川の博物館 第2展示室

【参加者数】 65人

【実施内容・目的】

- 展示企画者である須田大樹学芸員（県立自然の博物館）による、見どころなどの展示解説により、展示内容についての理解をさらに深めることを目標とした。
- 対面にて質問時間を設けることにより、双方向コミュニケーションを図り、さらなる学びを促した。



見どころやおすすめの展示物などを企画担当の学芸員が対面でわかりやすく解説し、展示の内容への理解を深めた。



展示しきれなかった資料を手にとってもらう体験なども行い、展示を補う学びを提供した。

## 【来館者の声】

○福徳岡ノ場の軽石の実物を持って、重さがわかってよかった。ニュースになっている実物を実際に触り、質感も重さもわかって勉強になりました。海というものについて、多面的に知ることができてとてもよかったです。(34歳・女)

○学芸員さんの説明がよく、海のめぐみで大地ができて私たちの生活が豊かにさせていることがわかりました。(54歳・女)

○埼玉も海と関係があると指令、これからも海をはじめ、自然を大切にしたいと思いました。(12歳・男)

## ■雪と氷のワークショップ in 埼玉

【開催日時】 2022年8月11日（木）

①10:00～12:00 ②14:00～16:00

【開催場所】 埼玉県立川の博物館 ふれあいホール

【参加者数】 82人

【実施内容・目的】

- 雪について学ぶイベントとして、中谷宇吉郎雪の科学館友の会の協力を得て実施した。海流の影響によってもたらされる日本海型の気候と太平洋側の気候の違いを解説し、海流の影響が雪の結晶の形にも及ぶことを学びつつ、様々な雪の結晶の観察を行った。



中谷宇吉郎雪の科学館友の会の方に海流の影響によってもたらされる気候の違いをお話いただき、様々な雪の結晶ができることを学んだ。雪の結晶の立体視やダイヤモンドダストの観察などを行った。

### 【来館者の声】

- 海や雪について学べてよかったです。（44歳・女）
- 水はとてもたいせつだなと思いました。海をまもりたくなりました。（9歳・女）
- 海と氷の関係があるとわかった。（6歳・女）

## 【事業全体のまとめ】

導入部分には環境別に海の生きものの生体展示を行い、展示室には多様な海の生きものを豊富な資料で展示することができた。海の楽しみ方や漂着物も展示することでより一層身近に海を感じることができた。埼玉にも昔海があったことは、過去に繁栄した古秩父湾の生きものの化石（実物および制作したレプリカ）や、海の恵みを楽しんでいた縄文の人の暮らしを複数の貝塚からの出土品を展示するなどして、より具体的にイメージすることができた。火山についても、火山の誕生に海が関わる事や海洋島の自然について標本とともに紹介することができた。雪の部分では、海流によってもたらされる日本海型の気候下における暮らしについて、民家模型や雪国の道具・資料・生き物の剥製から感じてもらうことができた。これらから海に行きたいという気持ちを高めたり、『海を身近に感じた』『海を守りたい』など海への興味や環境問題への意識を高めたりすることができた。加えて、実際に海の生きものに触るイベントや海藻押し葉づくりのイベントなどから、効果的に海への関心を高めることができた。

## 3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 埼玉県立自然の博物館	企画・執筆
2. 独立行政法人水資源機構利根導水総合事業所	調査・取材協力
3. 埼玉県水産研究所	調査・取材協力
4. 埼玉中央漁業協同組合	調査・取材協力
5. 瑞浪市化石博物館	レプリカ制作のためレプリカモールド型の借用
6. 豊橋市自然史博物館	模型制作のため、データ提供
7. 神奈川県立生命の星・地球博物館	資料借用・画像提供
8. ミュージアムパーク茨城県自然博物館	資料借用・画像提供
9. 埼玉県教育委員会	資料借用・画像提供
10. 春日部市教育委員会	資料借用・画像提供
11. さいたま市教育委員会	資料借用・画像提供
12. 草加市立歴史民俗資料館	資料借用・画像提供
13. 深谷市教育委員会	資料借用・画像提供
14. 松伏町教育委員会	資料借用・画像提供
15. 孺恋郷土資料館	資料借用・画像提供・連携展示・講演会による広報協力
16. 長野原町やんば天明泥流ミュージアム	資料借用・画像提供・連携展示・講演会による広報協力

## 4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 東松山ケーブルテレビ	「ひきだし！」8月1日～7日放映
2. 読売新聞	「埼玉と海、火山 関係性学ぼう」8月2日掲載
3. 埼玉新聞	「海や火山とのつながり探る」8月12日掲載
4. テレ玉	「いまドキッ！埼玉」8月13日放映

以上